

テーマ **俺たちのロータリー財団**

「ロータリー 昼めし食って 語り合う

地域のために 世界のために」

人の幸せは我が身の幸せ、他人の不幸に目を反らせて自分の幸せはない。「One Profits Most Who Serves Best 最も良く奉仕する者、最も多く報われる」を私はこう解釈しています。奉仕の報酬は金銭ではなく、大きな喜びで返ってきます。地区財団委員会の役割は「Club Profits Most Who Serves Best」であり、最も良く奉仕するクラブと会員が最も多く報われるようにお手伝いさせていただくことです。クラブがハッピーになるように、そして国際ロータリーのロータリー財団の発展に寄与する事です。

「Enjoy Rotary」は私が入会した時、1989-90年ヒュー・アーチャーRI 会長テーマでした。

2020-21年度のRI 会長ホルガー・クナークのテーマは「ロータリーは機会の扉を開く」ですが、これはロータリー財団の行動そのものであると思います。ロータリー財団はロータリー哲学である二つの公式標語を実践することであるのではないのでしょうか。「受益者の人生をより豊かにするための道を開くのがロータリーである」「奉仕の行いは、その大小にかかわらず、助けを必要とする人たちのために機会を生み出すものであると、私たちは信じている」とクナーク会長は語っています。「超我の奉仕」と「最も良く奉仕する者、最も多く報われる」がロータリーの公式標語です。1911年オレゴン州ポートランドで全米ロータリークラブ連合会の第2回ロータリー大会でアーサー・フレデリック・シェルドンが行った演説に込められた言葉を基に作られたのが「One Profits Most Who Serve Best」です。この同じ大会中にミネソタ州ミネアポリスRC 会長ベン・コリンズの演説を基に作られたのが「Service Above Self」です。幾度か改訂を重ねて今の形になっています。そして、国際ロータリークラブ連合会の6人目の会長であるアーチ・C・クランフは1917年のアトランタ国際大会にて「世界的規模で慈善、教育、その他の社会奉仕の分野で何か良いことをしよう」と提案して採択されたのがロータリー基金であり、ロータリー財団の創立とも言われる基となりました。当時もなかなかお金が集まらなかったが、数か月後にカンザスシティRC から、クランフ会長への記念品を購入する資金でしたが、一部をロータリー基金に寄付されたとのことです。これがロータリー財団最初の26ドル50セントでした。それから100年以上経過してロータリーは変革しておりますが、創立当時の素晴らしい哲学は今も変わらずに受け継いでいます。ポールハリスとその時代のロータリーの仲間たちは本当に尊敬に値する偉大な人たちでした。1910年ころの物価はお米10kg 1円位で、今は約4000倍でしょうか。タバコ10本入りが5銭、今は4000倍、ビール大瓶23銭で2000倍、26ドル50セントは今のお金にして1000万円程度ではないかと自分勝手に計算してみました。

俺たちのロータリー財団

国際ロータリーとロータリー財団は補完しながら一つの機能を果たしています。国際ロータリーは主として組織管理と奉仕プログラムを提唱しています。青少年交換、インターアクト、ローターアクト、ライラなど主として青少年を育てる分野です。実施に当たってはクラブへの資金提供はしていません。ロータリー財団は奉仕プロジェクトを推進するために存在しています。プロジェクトの主なもの、ポリオプラス、ロータリー平和センター、グローバル補助金、地区補助金等であり、皆様からの寄付などの財源から事業費として90%を支出しています。残り10%は寄付推進と一般管理費、いわゆる間接費であり、世界の優良奉仕団体のトップグループに認定されています。ポリオ根絶活動にしても平和フェロシップにしても私たち2780地区のクラブには身近なものであり、素晴らしい財団活動であります。そしてグローバル補助金と地区補助金は私たち2780地区のすべてのクラブからの提案によって、クラブの自主的なプロジェクトが出来ることになっています。そして何よりも特徴的なことはクラブが国際ロータリーの会員であることによって世界中のロータリークラブと会員が強固な信頼の下につながっている事です。財団活動は皆様からの寄付で支えられており、文字通り自前のロータリー財団であります。それ故にロータリー財団は俺たちの財団であるのです。奉仕して「Enjoy Rotary」ロータリーを楽

しみましよう。ロータリーは友情・奉仕・哲学のスパイラル向上運動でもあります。